

を添へ、聊か所思を述べ、以て序言に代へ候書不盡意、拜復。

斯民主筆白石正邦氏に贈りしもの (明治三十九年五月)

歸京後二號拜見、體裁も大に進み、洵に有益に存候。京都の河原校長の如きは、大に賞讃し居り候。昨日より此有益なる編纂あるに、自治及教育當局者の購讀者少きは、大に遺憾に就き、五六千に上る様回章を各地方に出す積に候。

二號編纂の際、小生等彼是熱心の餘り提出せし口繪の説明及雜報、十分御修正を願ふ積りなりしに、餘日なかりし爲、不體裁の所あり、以後は單に材料として御助力致候に付、思ふ存分に修正被下度候。

思潮を蒐め、又は訪問等可然御見込に依り、隨意翻譯又は購書並に歴訪等に要する爲、殘餘此儘差上置候間、決算を要せず、可然雜誌に光輝を添へる様御使用被下度、小生等も右等の爲要する費用を貰ひ置く筈、又一々決算不致候に付かゝる些事に御懸念なく、専心好資料奉願候。八、十二の日會合の事は、全く大兄が態々内務に御訪問あるも、會議等の爲御面會出來ず、又御面會中に局長等の入室あり

妨げと相成候に付、大兄が我々より材料を吸収し、又は材料の御註文を受くるに一纏に會する方幾分か御繁忙の時を省略し得ること、存じ定めたる義に付、十分に我々御利用被下度候。今度は少し前の日に御下命、又は蒐集被下、十分に御修正被下度候。御遠慮なく修正を願はざれば、文章等一致せず、却て材料を此方より出しながら赤面を致し候。

尙相田君差上候に付、十分御聞取被下度候。早川君も好雜誌なりとて大喜び、尙此上好書冊御申出被下度、三十圓位は買求め度候。今月分の三十圓、是は別に翻譯料等の爲差上る筈に致し居候處、多額の御返金、餘りに御節約には無之哉、筆記なり、訪問費なり、購書費なり、決して吝むこと無之、十二分に御利用の程不堪切望候。

昨夜岡田氏御來訪、井上哲次郎氏、三上參次氏に依頼すること申居られ候。今度は大兄の一論文(報徳に關係なき)是非に奉願候。

尙火曜日位一度内務にても御面會仕度候。

中央報徳會幹事上野他七郎氏に宛てたるもの

〔明治四十三年十一月〕

拜啓、昨日下午農務局長に面會したるに、大阪の共同荷造の共進會のこと話すと申居候に付、右の件五六分談話拜承したしと、貴下名刺に書し、農務局へ御出被下度候。歸路鶴見君に面會し、伊太利の博覽會は如何なる點に力を入るるや、御尋ね紹介し、如何と存候。

石見國芋代官として知られたる民政家、今度岡山行幸にて贈位となれり。岡山縣倉敷にて切腹したる美談あり。右は内務省へ出頭、荻野文學士〔同地巡回せし筈〕に御聞き被下度候。土岐先生御尋ね如何。

岡山、三重、滋賀行幸啓の爲め出來たる人物志、寫真帖等あり、材料に御入用なれば、貴兄及近江君なり、朝八時頃に御出被下候は、常に在宅仕候。

大橋重省氏に宛てたるもの 〔明治四十四年一月十四日〕

拜啓、毎々御尋被下、其上老幼共珍しき、又教訓に富める繪葉書等度々御心添之

段、何とも有難奉存候。〔中略〕

先日も林市藏様へ從來特に同會〔報徳會〕の御援護被下候點より、親類同様に御助力を願度旨御依頼致置候間、尙大兄に於ても、先日會より送付仕候筈の趣意書に依り、自治民育に關係ある人々に可然御勸誘奉願候。『斯民』は一冊十錢位のこと付、長官、事務官連中を始め、面長等可然向へ御氣張被下度、一同懇願致居候間、可然御配慮願度候。地方局に近來出來候書冊一纏め爲御參考拜呈仕候。

猪口鳥取縣八頭郡書記に宛てたるもの 〔大正元年一月十四日〕

謹啓、熱心御研究、又報徳村の御工夫等感銘仕候。早速電話にて弊舎迄御出を願ひ候處、御出發の後に甚以て缺禮仕候。就ては聊爲紀念冊子送付仕候。其内鳥取縣巡回可仕、其節是非面會仕度存候。報徳村の御冊子は報徳會の方へ指出候。何れ『斯民』に登ること、存候、何れにしても地方開發の急なる今日、大兄の御熱心必ず足跡を残すべく、事務も經營も二つながら御考案被下度候。報恩の爲め是非に一にても難村、貧村の整理大切に候。

埼玉縣南埼玉郡潮止村長田中四一郎氏に宛てたるもの

〔大正三年六月四日〕

拜復愈、御清暢奉賀候、過日御依頼申上候貴組合救濟事業規定早速御送付被下有難奉存候。

來月號『斯民』誌上に登載、一般之參考に供候様申付置候。乍延引御禮迄如此に御座候。拜具。

山形縣囑託吉田幹氏に宛てしもの

〔大正三年八月〕

出張中不容易御心添を得奉感謝候。二宮徳君來訪、委細協議済に候。山形に足跡を残され候様願度、又御約束の時々報告は『斯民』に願度、又『斯民』は町村組合各社及小學校に普及候様奉切望候。

山形縣立養徳園に宛てたるもの

〔大正三年八月十一日〕

御丹精の野菜到着、下岡次官謝意を表し候。且院生の勉勵を喜び居候。尙農

場同様の小桃、唐モロコシ少々有之候はゞ御願仕度、代價等御申添被下度候。

上野中央報徳會幹事に宛てたるもの

〔大正五年一月一日〕

前田郡長より申來候は、十時に特別の團體車を出すとの事、又賃金は纏めて買ふことにしたしとの義に付、會にて支辨ありたし。柳田氏は不來、田澤氏は行くとの事に候。

學校及青年團へ、土産として書物少し計り乞ふ。小生十時半、御所より退去、直に學校へ自動車にて走り候。減多汁用意すとの事。

東京府農商課長木村惇氏に宛てたるもの

〔大正六年八月〕

東部遞信局長へ千住板橋方面と東京との行政上の關係、及商工業の聯絡は日に月に密接となり、荒川改修電車の開通に依り、人口の増加、工場を増設は尋常の郡部を以て之を視る可らず、人事社交の關係は、一個の都市大團體なるの觀あり、是非電話直通の經營を普及せられんことを、遞信大臣へ上申書添へ懇切なる手

東を發したき事、大森、澁谷、王子、其他如何哉。八王寺市へ鐵道院の輕便電車聯絡を至急請ふべき旨に、近年八王寺の人口物産増加の實例を具して鐵道院總裁へ迫りたき事。

右農商にて起案、且其上申したることを二郡及八王寺市へ通じ、郡市長に當該局長を訪問せしめられたき事。

東京府下島廳新設の爲内務省某要路に贈りたるもの

〔大正六年八月十三日〕

謹啓、益、御清康奉賀候、目下御省豫算御評議中之趣、地方官一般の事は十分御配慮と存じ、一同雲霓を望むが如く期待罷在候。小問題には候へ共、島嶼開發の爲新廳設置の一條御英斷御詮議の程、此上共奉願候。來る四月一日より地方稅賦課仕り、此秋季府會にも相當獎勵費提案候筈に候間、何卒民政一新の端緒を御開き被下度候。〔下略〕

木村東京府理事官に宛てたるもの〔大正六年十月〕

御結婚慶賀無此上、良助成者を得られて、公私共に快心の御發展深く希望仕候。昨日早崎校長來應し、實用工業試驗場なりとも、此府會に提案なきは千古の恨なり、今や不景氣の模様にて、一時に六拾萬圓は困難に付、二十萬圓分なりと早く纏めては如何哉と申居候。小生も此府會迄には十萬圓寄附提案致度と存じ、早崎技師の言を待たず、戦後準備の骨子として、農商課豫算の花として期待し、明日も赤星氏關係者訪問の筈に候。成丈十萬圓なりと定り、繼續費豫算として二年豫算提出、其事に確定したきものに候、七年度寄附十萬、八年度府費十萬圓は最後の腹に候。草々敬具。

木村東京府理事官に宛てたるもの〔大正七年一月二十七日〕

拜啓、風邪十分に御保養切に要望仕候。

今日御勝なきに付、差控へ候、左の件主任等に御示被下度候。

南足立郡長を召集し、例の製紙の補助は此方の額を定め申渡し、決行せしめ被

下度候、淺草藏前の製紙先生、是非講師に用度候。

三宅、八丈、大島等へも救済費、又は年度末追加豫算何れなりとも斷行して御考の通り種牛分配なされ度、内地と併せて十頭位は氣張り度きものなり。尤煉乳用の器具も二箇所位は救済費にて助成すれば、細民の搾乳を十分に活用し得べしと存候。

八丈島のフシ製造の爲め鍋を要すること、夙に島司申居候、三百圓位の補助を爲しても、今一層多量に産出せしめ度候。

右島々の事府會議員巡島の前決定し、彼等の申出になり、事件の成立するが如き顛倒なき様、此砌急速決行ありたし。前田技師北行との事に付、右急ぎ申述候。

清水澄博士に宛てたるもの (大正七年二月十五日)

謹啓、不一方御配慮を蒙り、當日無事相濟、一同呉々御禮申述候、老人は一家の重寶、瑣事も満足し呉れ賑々しく候處、今更寂寞を感じ候。是に付ても御尊父様の御自重、御長壽を祈り候。高林寺にて伊東工學博士も、獨りの父を有ち候へば、今

日會葬して孝養の足らざるを遺憾とすと申居候。十六日十一時初七會の小集、親類同様の大兄御二方、高木に申候のみに有之候。御電話にて令夫人御都合なし下され候段奉感謝候。尤御病後如何哉と御案じ致し候間、寸時なりとも御光臨奉切望候。草々敬具。

東京府理事官木村惇氏に宛てたるもの (大正七年二月十五日)

謹啓、過般は御病後なるに拘はらず、諸事御配慮を蒙り無滞終了、感謝の餘り忌中ながら不取敢御禮申上候。又其節令夫人様御主人公御看護御疲勞の處、態々御弔慰を辱し、又通夜御見舞を辱し、重々御禮申上候。土曜日迄にて除服出仕願置候處、例の澁澤男會長一條は、日曜日朝を以て、一應部長と共に澁澤邸へ御訪問被下候はば、機先を制して宜しき哉と存候。同男府訪問との星野氏内話に候へ共、此方より罷出候方可然哉と存候、右部長と協議決行被下度、右申上度如此に候。草々敬具。

山口縣知事 中川望氏に宛てたるもの (大正七年二月十七日)

謹啓、公務に繁劇の處、慇懃なる御手束、並に御鄭重なる御供物を賜はり、小生は勿論、二弟竝家内共感激此事に候。御風邪の善後は如何に候哉。令夫人様もまだ御十分ならざる様に御見受仕候。其後御全快とは存候得共、御一同御自重切望仕候。如何に老體に候とも風樹の感は有之候。其後御老母様御機嫌如何に候哉、老人は家寶御大切に奉存候。未だ忌明に候はず、但し今日除服出仕、何より先懇情不取敢御禮申上候。早々敬具。

木村東京府理事官に宛てたるもの (大正七年三月二十三日)

今日の廉價市場首尾能く相濟、注意の周到なる欣喜に不堪、府農會の人に慰勞實行したく候。又是に鑑みて常設市場の考案承知仕度候、二三日前よりの大阪新聞、市の常設市場の一條中々有益なり、切抜なければ官舎の分一讀ありたき事。種豚、種鶏の一條、小生は速に通過するには、郡部專擔の農事試験場費の内に追加するを賢なりと考ふ。已に日野に其仕事あるに依り、是に新方法を加へたれ

ばなり、聯帶にして議論するは如何哉。又貴兄に切望するは已に日野の支場を一見したる上は、神奈川縣の畜産事業を此火曜日に實査し、又縣廳の獎勵方法を是非きゝ糺しありたき事也。其序に今回縣にて出來たる商陳列及市の公會堂を一見し、歸京の事はなり。

何れにせよ、六年度の追加として、此二十九日の參事會にて解決の事。

日曜天氣好ければ子安の岩崎家畜産一見如何、何れも實行を望む。

安田氏の兼任は坂田校長の内諾を得たり、進行を乞ふ。早崎技師の方向とか貴課の補助役として専任を望む、兼任の技師のみにては獎勵の事進行遅く、屬官連のみにては説明等は甚だ危し、染織學校の後任速に講究せしめられたき事。

木村東京府理事官に宛てたるもの (大正七年八月)

協會廉賣の分は市の爲め留保し、内地米券發行の時を以て、先づ市區に引續き市區の責任にて、區役所の支張となすも差支なしとして、教育尊重の上より先づ閉鎖するの利害如何、何れにせよ分量は減じ二升到止め度候。

外米切符制は實行不能か、又弊害如何、巡回販賣は中止し、其額調節の事。内地米券發行の時より外米、鮮米一週毎に二割減如何。

大島波浮港村小學校長松木國次郎氏に宛てたるもの

〔大正七年九月〕

拜啓、益、御精勵欣賀此事に候。御心懸之漁業組合の教本、適切至極に候。平素地方開發の書冊等御研究之由、教育家は村夫子に非ずして、村經營者の一人に可有之、心田を基本經營するは、教育家の御任務と心得られ、御奮勵欣羨に不堪候。伊豆邊漁村の狀況、山口縣及岡山縣にて、漁村中表彰せられたるもの、事蹟等、直接に内務書記官田子市町村課長に御著書を添へ、依頼爲され度、必ず有益なる材料を得らるる事と存候。草々敬具。

木村東京府理事官に宛てたるもの 〔大正七年九月〕

例の六萬圓豫算の臨時市場は、勿論妙案なるが、其管理の當事者直に出來難か

るべし、依て市内及隣接町村の中産以下の者に應ずる爲賣店は後日市町村又は慈善團體に渡すこととし、目下は之を共同會及共榮社に使用せしめ、會計分別して物品の供給を爲さしめ能はざる哉。

組合員に限らず、何とか便法を設け、此賣店を利用し得る人に、豫め證明券を渡し置く工夫なき哉。木炭も供給の中に入れ、二組合共無利子の資本五萬圓を貸附し、命令條件附にて運轉せしめ得ざる哉。

藤井主事等と極内に御協議、又同時に二組合の今日に處する方法に就き專務理事を今日御召集を乞ふ。

文部省參事官下村壽一氏に贈りしもの 〔大正七年十月十九日〕

謹啓、益、御清康奉賀候、陳者〇〇校長の儀、羽田課長より御内願仕候趣、夙に御同情も有之候儀に付、乍御手数海外學校其他可然處へ御照會方、是非御配慮を蒙り度切望仕候。〔中略〕何分の御心配奉願候。草々拜具。

追而五十萬圓寄附者は、兼て御氣張と御盡力の誠心貫徹に外ならず、其表彰

方次官殿へは内話仕置候に付、出來得る丈奉願候。又別條の事に候が、府下小學、中學實業學校、師範、女學一校宛、大臣、局長に一度巡視願度、其爲二十日に御都合如何哉と、次官及粟屋祕書官に申出の爲、學務課長出頭仕候。前大臣には其機會なかりしも、小生就職前に已に御覽濟の學校もありし様子に候。新文相、新局長には、教育調査本會再開前に一憤發願度、尊臺も御同行、新局長は勿論、大臣閣下、次官閣下等へ御勸め被下度、何等趣向も成績も無之候へ共、全國の爲一大獎勵となるべしと愚考候。

徳富蘇峰氏に贈りたるもの (大正八年二月)

肅啓、賢臺近頃二豎の爲め勝れざる御様子に候折柄、御北堂様突然御逝去被爲遊御高齡とは乍申、多年庭園之御薫陶尋常に無之、永く御孝養を享けさせらるゝ御事に奉存候處、意外之御事にて、御哀傷の至り、御同情申上候。小生は慈母を喪ひたる近き實驗より申上候得者、一家團欒の歡喜を缺きたる寂寞、何に喩へん様も無之、殊に曩に賢大人御永眠に尋で、此凶事有之、生者必滅、會者定離と申しなが

ら、無情の恨事に御座候。過日汽車中にて、御面會之節、名門之俊髦、淑女雲の如く、永遠の福德を全うせらるべきは、當然の儀と申上居り候に、豈計らんや、茲に訃音に接せんとは、誠に夢寐の心地せられ、不取敢弔詞申上候。勿々敬具。

逗子灣頭鎖晚霞。春山如睡夕陽斜。

瑤池王母上雲去。不見仙姿映碧波。

是 政

斯民編輯主事近江匡男氏に宛てたるもの (大正五年四月二日)

明日神武講話會の内、福本氏、及萩野、芳賀二博士、殊に會評議員、萩野仲三郎氏を新宿華園學校に聞き、御歸りに御寄り如何。二日の新聞に委細出で居候。

外遊家信

巴里より (明治三十三年八月十四日)

是は音樂の神女の像に有之候趣、今日の新聞を見るに、魯國の皇后陛下は、支那

出陣の士卒の爲め、其の軍衣繻帶を親ら製作せらるゝ爲め、大館を開かれ、宮女は勿論諸侯伯の妻女と共に、日々に通御あり、又士官の妻女又は篤志の女にして、遙支那迄野戰病院の看護婦に出懸る連中あり。其の名を見るに何伯とか、何子爵と、いふの女多し、ホネームーンを支那に試み、夫は從軍し、妻は看護婦となりたるありて其評判高し。

ブルガリヤにて (明治三十三年十月廿一日)

汽車の好きに眠り居るに起され見れば、ブルガリヤの都に著く、汽車亦走る。明朝はブタペストに著する筈。

無事、爲紀念飛一鴻候。(汽車の窓より求めたる葉書)

稗島千町に續き兎馬

風に嘶くブルガリの原

奥地利より (明治三十三年十月二十五日)

奥地利王室所屬の寶庫を一覽す。耶蘇の用ひし手拭は如何にも奇異なり。即位式に用ひ、玉ふ寶冠其價七百萬圓計り、又マリヤ女帝の用ひられし飾冠、金銀金剛石を以て飾り、如何にも世界を動せし女帝の召されしものと思はる。皇帝歴代相傳の寶劍などもあり。我國の三種の神器を大廟に藏めさせらるゝとは趣を異にす。

國帝夕食の殿下には、常に職工の徒集り來り音樂を聽けり。是れ孟子にある王の管籥の音を聞きて吾王の休戚を知ると一般なり、面白し。

ベニスにて (明治三十三年十月二十七日)

ベニス舊殿今尙存す。古大寺あり最有名なり。之を觀て海岸に出づ、市は海中に浮べるものゝ如し、水路縱横に通じ大阪の如し、ゴンドラと稱する小舟に棹して公園に到る。昔盛大なりしも、今は衰頹、浮浪徘徊の徒多く不快なり。今夕ローマに行く。

ナポリより 《明治三十三年十月三十一日》

此日天氣最も好し。二頭馬車に龜井《英三郎》、清水《澄》、池邊《義象》の三君と同車、快談興を盡せり。

古への面影見えて弓張の

月こそかゝれベシプスの山

義象

山はベシプス、海はネーブル灣、伊太利二景の一なり。市は人口六十萬、大阪に等し。明十一月一日伯林の方に向ふ。《十月三十一日夜、弦月照る下にて》

ポンペーの元の都に来て見れば

月落ちかゝるネーブルの海

ミランにて 《明治三十三年十一月》

伊太利は貧國など申候へ共、財政に於ては日本の歳入の三倍も有之候上、北方伊太利に參るときは、ミランの如きは絲業繁盛にして、其近郊は桑畑の遠く連り候を見ても知るべし。昔中興の英主ビスコンチと申す人民に教ふるに斯業を

以てし、永遠の基を立てしめられたるは、米澤の鷹山公と同じ。

ミュンヘンより 《明治三十三年十一月五日》

五日、六日ミュンヘン都視察、市役所圖書館、大學、紀念碑等大略見盡し候。此地京都に似て人も温雅に、美術に富む。畫を學ぶ婦人三千人以上に及ぶといへば知るべきなり。下女、下男の如き長く奉公して殊勝なる者には市より賞與を爲し、之を獎勵すといへり、美風といふべし。

今夕は更に一泊し、此地留學生高野君《法學博士》に就き意見を聽く。明日は伯林に向て出發致候。尊《異名を尊と定む》。

獨逸にて 《明治三十三年十一月》

三色旗は獨逸の國旗なり。皇帝常に此マンテルを好み之を著せり。人之を呼でカイゼル、マンテル、吾魯國行のマンテル亦之と同じ。唯、其品質の最下等なるの差あり。是に依り畏多くも尊の諺名を得たり。

獨逸より 《明治三十三年十一月》

皇帝諸事に多能なり。出獵を好む。雄略帝に似たるあり。其服裝圖の如し。其他詩を詠じ、オペラを指揮し、又畫を好む。ミュルサレヌに幸して説教を試み、大隊長として近衛兵を指揮し、家長として一家の政を聽く、其食膳に至る迄命ずることありといへり。天子手を拱するものと異れり、左れども我 明天子の如く徳天の如きは、之を列國の間に求むべからず。我 今上盛夏尙親しく政を聞し召されて出遊なき御精勵に思及び、感泣に堪へず、涙ながらに尙茲に筆を添ふ。海外に在りて萬感轉、深し。

伯林より 《明治三十三年十一月二十二日》

伯林は第一新しき都にて學び易くもあり、公使館には倉知氏等知人のみにて調査にも便に、折角視察罷在候。日の立つこと矢の如く、餘程寒く相成候へ共、不相變元氣に居り候。

元金澤生れのもの倉知書記官、《鐵吉氏》、清水教授の外に、松本文學博士《文三郎

氏》あり。相手交りに諸所案内し呉れ候。

今日は陶器及硝子の大製造所を一見致候、明朝は教育の事に付人を尋ね申候。内の主人は一日も早く奥さんを招ては如何、獨逸語を教へて上るからと申し候間、都合により鶴を指出被下度候呵々。船が弱ければ空中を飛び舞ふて洋行する方却て宜しく候。《大谷母堂及鶴子夫人に宛てたるもの》

獨逸にて 《明治三十三年十二月一日》

十二月七、八日渡英の筈に候。其前岡田局長《良平氏》と同行、ドレスデン、ライプツヒ等市行政として實業教育等實施の模様一見に罷越候。萬事萬物視察するに隨て興味出て、面白さ限り無之、無盡藏の愉快を感じ申候。無事息災に候。

ハンブルグより 《明治三十三年十二月》

下宿の老人切りに此次には細君も同行ありたし、西洋人などは決して獨りて旅をせずと申し居候。歸朝の上は又々英語など教へたしと今より樂居り申候。

夫の上達するに連れて、妻たるものも段々見聞が廣くならねば宜しからず候に付、十分に體力と氣力とを養ひ置き呉れ候へば、歸國の上何なりとも宜しき様話も致し、又稽古もして參らせ候べし。

伯林の視察も出來候に付、倫敦に出發し、ハンブルグにて此手紙の續きを書きたることにて候。山之内様の事など書きたる十一月の手紙昨日著、色々御心常に嬉しく讀居候。坊子がきかぬは健康のしるし、何でも子供を人傑に養育するは母が第一なり、母の美しき良き心を子供に其儘にうつしたきものにて候。

ロンドンにて 《明治三十三年十二月二十五日》

ロンドンを東西に蹂躪す、世界の大會も左程大ならず、今日は西洋のクリスマスにて、互に進物を爲し、健康を祝し、松の枝を立て、満飾を爲し、御馳走をして一家圓滿の喜を以て一日を送る日に有之候。小倉氏《正恆》同寓の宅にて此式を盛に行ふ筈にて、是より朝飯を喫する所に有之候、此手紙著の節は米國に在らん。

紐育より 《明治三十四年二月一日》

是は世界の大橋にて候。二月一日紐育を發し、一兩日當地ヒラデルヒヤに取調の爲滞在致し、ワシントンに向ひ候。十九日には桑港を出航の筈に有之候、米國も中々研究の價值有之、光陰走るが如き感を致し候。

幸にもロンドンの霧も少く、米國の雪もなく、天幸此上なしと喜居候。

ワシントンにて 《明治三十四年二月六日》

此日議會傍聽す。合衆國議院の大圖書館にて、電氣の仕掛に依り、議院よりポタンを押し、書物を告ぐるときは、地下の導管を傳ふて書物が往復する工合、天工人力に非ず。此日ワシントンを立ちてピッツバルクに向ふ。

紀行はとらず、總て保存の事。

井上明府遺稿 終

故井上明府著書目録

歐西自治の大観 明治三十九年十二月十日第一版刊行
列國の形勢と民政 明治三十九年十二月十五日刊行

斷片傳中にも見ゆるが如く、歐米視察の後公にせるもの、前書は主として歐米自治の制度を紹介し、後者は復命書なる『西遊所感』を修補したるものにして、各國自治の内容に就き評論せり。共に本邦自治行政上一新紀元を劃するに至らしむるに與つて力ありしものなり。

樂翁と須多因 明治四十一年十二月十三日刊行

民政家としての白河樂翁公とスタインとを比較評傳したるもの、著者會心の作の一たり。

救濟制度要義 明治四十二年三月三十一日第一版刊行

内外古今の救濟制度を評説したるものにして、斯種の著書としては、歐米諸國

に於ても比肩し得るもの鮮しとの評ある大著なり。

自治要義 明治四十二年十一月二十三日第一版刊行

前書と相並んで、自治に關する内外古今の制度を比較論評せる名著なり。

都市行政及法制 明治四十四年七月十三日第一版刊行

上下二卷、約一千頁に近き大著にして、世に博士論文と稱せらるゝものなり。

自治の開發訓練 大正元年十月二十六日第一版發行

前著自治要義に、更に新資料を加へ、且つ平易に書きこなしたるものにして、最も廣く世に行はれ、自治思想の涵養に資せること甚大なり。

田園都市 明治四十年十二月一日第一版刊行

故博士の熱心なる監督指導の下に、内務省地方局員等が數次徹宵非常なる努力を以て成れるものにして、本書出て、初めて田園都市の名世に喧傳せらるるに至りしものなり。其他故井上明府監修の下に成れる書籍鮮なからず。

大正九年六月八日印刷
大正九年六月十二日發行

(非賣品)

編輯者兼 近江匡男

印刷者 島連太郎
東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 三秀舍
東京市神田區美土代町二丁目一番地

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
LIBRARY
1100 EAST 58TH STREET
CHICAGO, ILL. 60637
U.S.A.

終